

とやまね通信

2026. 4 月発行

第 28 号

発行／一般社団法人富山県介護支援専門員協会

富山県富山市安住町 5 番 21 号

富山県総合福祉会館サンシップとやま 3F

TEL 076-432-6455 FAX 076-432-6450

ごあいさつ

一般社団法人富山県介護支援専門員協会会長 坂東 みゆ紀



会員の皆さまには、日頃より地域包括ケアの推進に多大なるご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

この一年は、医療・介護連携の強化や制度改正への対応などケアマネジメントを取り巻く環境が大きく動きつつある年でもありました。そのような状況を最前線で知り、感じる立場である皆様のご意見は大変重要であります。お忙しい中お答えいただくアンケートの結果は、より多くのケアマネジャーの意見として地域に、県に、国に届けたいと思います。

また、2年続けて ACP 研修を行ってまいりましたが、意思を尊重した支援は富山県が掲げる well being（直訳すれば“よりよく生きること”）の支援そのものと考えます。引き続き ACP と ALP（advance life planning）を深めていきたいと思ひます。

協会研修におきましても最前線でご活躍の先生方を講師にお招きし、県外からの受講希望があるような講座を開催しております。引き続き法定外研修にも力を入れていく予定です。

今後も、より質の高いケアマネジメントの実現に向けて、共に学び合い、支え合える組織づくりを進めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



目次

- P1……ごあいさつ 一社) 富山県介護支援専門員協会会長 坂東 みゆ紀
- P3……令和7年度 富山県介護支援専門員協会 通常総会・基調講演のご報告
報告者：ケアスタジオ介護相談所 島崎 新一
- P4……ケアマネジメントの未来を拓く研修に参加して
報告者：射水万葉苑本町サポートセンター居宅介護支援事業所 石田 由美
- 第1回施設ケアマネジメント研修に参加して
報告者：グループホームはっちょうとんぼ 野澤 学
- P5……家族支援研修～ケアマネジャーが行う家族支援～に参加して
報告者：JA 高岡居宅介護支援センター 田畑 里美
- P6……適切なケアマネジメント手法・疾患別ケア研修（認知症編）に参加して
報告者：鳳鳴苑在宅介護支援センター 坪内 理香
- 適切なケアマネジメント手法・基本ケア研修に参加して
報告者：戸出・中田地域包括支援センター 種村 恵
- P7……いい日、いい日介護の日 in とやま 2025に参加して
報告者：守山・二上・能町地域包括支援センター 広岡 小百合
- P8……令和7年度 BCP 研修に参加して
報告者：小杉南地域包括支援センター 石川 ひとみ
- P9……独居・高齢者夫婦の支援強化とセルフネグレクトの予防に関する研修に参加して
報告者：高陵・下関地域包括支援センター 竹中 葉子
- P10……令和7年度 管理者研修（シャドーワークの向き合い方）に参加して
報告者：ケアサポートにながわ 高村 真由美
- 【北陸ブロック研修会 in とやま 特集】
- P11……（1）開会式・基調講演の報告
報告者：矢野居宅介護支援事業所 森越 祥江
- P12……（2）発表・シンポジウムに参加して ①
報告者：万葉居宅介護支援事業所 松谷 三和
- P13……（3）発表・シンポジウムに参加して ②
報告者：南砺市地域包括支援センター 竹内 嘉伸
- P14……（4）発表・シンポジウム・閉会式の報告
報告者：ケアスタジオ介護相談所 島崎 新一
- P15……（5）第15回 北陸ブロック研究大会 in 富山を終えてのお礼
大会実行委員長 一社) 富山県介護支援専門員協会 吉田克彦
- P16……賛助会員一覧、協会員募集、バナー広告募集
- P17……編集後記 一社) 富山県介護支援専門員協会 広報委員会 島崎 新一

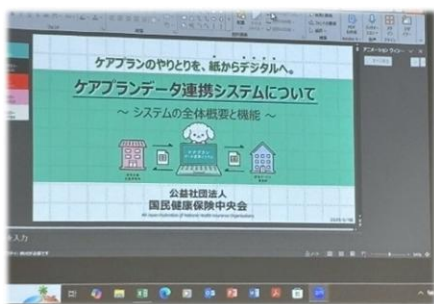
令和7年度 富山県介護支援専門員協会 通常総会・基調講演のご報告

報告者：ケアスタジオ介護相談所 島崎 新一



令和7年6月19日 富山県民会館において集合、オンラインでのハイブリッド形式にて『一般社団法人富山県介護支援専門員協会 令和7年度通常総会』が開催されました。

来賓の富山県厚生部 高齢福祉課長 勝山 誠司郎氏と富山県国民健康保険団体連合会 事務局長 川口 昇氏からご挨拶をいただいた後、令和6年度事業報告・同収支決算報告、監査報告、役員改正案、令和7年度事業計画案・同予算案の議事が進められ、賛成多数にて全ての報告、議案が承認となりました。



基調講演では、厚生労働省老健局支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護業務効率化推進官 長谷田 麗子氏から『介護現場の生産性向上とケアプランデータ連携システム』、公益社団法人国民健康保険中央会 保健福祉部介護保険課 寺島 秀樹氏から『ケアプランデータ連携システムについて』と題した講演をいただきました。

ケアプランデータ連携システムにつきましては、介護業界全体では未だ広く普及が進んでいない現状にはありますが、今後の居宅介護支援事業におけるペーパーレス化、FAX等の通信費のコスト削減等や介護支援専門員および事務員の業務負担の軽減等にて生産性向上を図る為にも有効なシステムであります。尚、システム導入に際しては行政からの何らかの支援も期待しており今後に円滑に導入が出来るようになれば良いと思いました。



黒田 正一前常任理事

今年度の協会の常任理事につきましては、坂東 みゆ紀会長をはじめとした6名の方々での構成となりました。尚、協会設立の当初から常任理事を務めておられました 黒田 正一氏につきましては、この度の役員交代にて常任理事を退任されることとなりました。同氏には長きに渡り多忙である常任理事を務めていただいたことには感謝の念しかありません。また、協会への多大なる貢献をいただき誠にありがとうございました。

※ この度の通常総会・基調講演は集合とオンラインによるハイブリッドにて開催されました。

ケアマネジメントの未来を拓く研修に参加して

報告者：射水万葉苑本町サポートセンター 居宅介護支援事業所 石田 由美

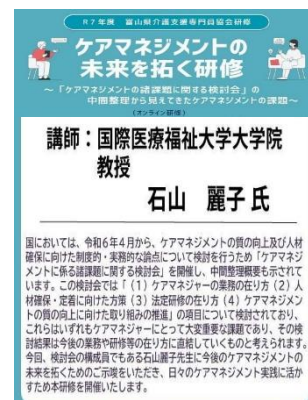
令和7年8月8日(金) オンラインにて『ケアマネジメントの未来を拓く研修』が開催されました。

講師の国際医療福祉大学大学院 石山麗子氏から『ケアマネジメントの諸課題に関する検討会』『中間整理から見えてきたケアマネジメントの課題』として厚生労働省の動きや、これからの課題について、分かりやすく講義していただきました。令和6年4月15日ケアマネジメントに係る諸課題に関する検討会では、シャドーワークを含めケアマネジャーの業務が増加する中、“ケアマネジャーが業務に注力できる環境整備が必要”との検討内容が中間報告されていることを学びました。

グループワークでは、『個々のケアマネジャーが経験したシャドーワークは、つついやってしまうことが多いけれども代替となるサービスや社会資源はなかったか』について検討したことにより、新たな発見と視野を広くすることを学びました。

厚生労働省が分類した線引きの通り、「シャドーワークは業務外だから取り組まない」と、きっぱりと線引きするケアマネジャーはいないと思いますが、“突発的、単発的な対応なのか常態的な対応なのか”を見極め、常態化しそうな内容であれば、誰が担当として対応すべきなのか、支援者や自治体、地域包括支援センターの関係者も交えて検討していきたいと思っています。

※ この研修はオンラインにて開催されました。



第1回施設ケアマネジメント研修に参加して

報告者：グループホームはっちょうとんぼ 野澤 学

令和7年9月9日 富山県民会館にて『第1回施設ケアマネジメント研修』が開催されました。介護施設における各種委員会の運営や加算要件に対応した記録整備について学びたく、参加させていただきました。



はじめに、講師の介護老人保健施設みえ川村老健 施設長 山田剛氏より、『加算と委員会運営に活かすケアマネジメントの実践～各種委員会における記録の工夫、多職種連携を通して～』というテーマにて講義をいただきました。施設のケアマネジャー特有の難しさ、ケアマネジメントの考え方の内容においては、職員の育成や委員会運営に応用できる技術について、加算対応に必要な記録・体制構築のポイント、ケアマネジャーのハブ機能と多職種連携の内容においては、加算の概要や記録物、体制構築のヒントや施設ケアマネジャーの役割について学ぶことができました。施設ケアマネジャーとして誇りを持つことに加え、役割を再認識することができました。



次にグループワークにて、自施設における課題抽出と現状整理、改善策の立案について話し合いました。職員間で加算への理解度に差があり、理解を深めるためにどのような取り組みをすればよいのかなど様々な意見があり、参考になりました。具体的な取り組みを考えたことで、すぐに始められることも見えてきたので、今回の講義内容を自施設に持ち帰り、さっそく取り組みを進めていこうと思いました。

家族支援研修～ケアマネジャーが行う家族支援～ に参加して

報告者：JA 高岡居宅介護支援センター 田畑 里美

令和7年9月24日 オンラインにて『家族支援研修～ケアマネジャーが行う家族支援～』が開催されました。講師は国際医療福祉大学大学院 教授 石山麗子先生でした。

まず初めに、ケアマネジメントでは、「何の為に（何を目的として）“ ”家族の誰に目を向けて“ ”どのような方針“ で支援するのか」というお話がありました。利用者の生活の安定を図る為には、家族を構成する1人1人と家族全体へ目を向け、家族の力を最大限に引き出し家族全体の生活の安定を目指し家族の力をつける（危機回避力・危機に備える力をつける）方針で支援する必要があります。尚、その際には、家族内に生じた『介護』という出来事やファミリーサイクル（家族周期）を家族としては、“どう捉えているのか” “どう対応しているのか” “どう変化する力を持っているのか” を十分に理解した上で家族の成長を促すこととなります。

また、『家族支援』の類型についても教えて頂きました。『家族支援の基本型』は『利用者支援』を主たる目的とした『家族支援』で、利用者の家族すべてに対して行うものです。家族の意向と立場を大切に労い承認する。また、介護負担軽減を図り虐待への発展を防ぐなどの支援があります。それに対し『該当者のみに行う選択型』は利用者以外の家族の個々を対象とした支援であり、家族の方自身の要支援・要介護認定申請の他、介護保険制度とは別の制度（育児介護休業法、障害者総合福祉法等）につなぐ支援などがあります。これまで私自身は家族への支援の方法を分類したことがなく、今後の支援の際の状況整理に役立つと感じました。

講義の後半は、事例を通して『介護する家族を支援するケアマネジメント技法』を学びました。そもそも介護保険法は『介護の社会化』を目的としていてサービス活用は家族支援にも資するものです。また、家族を支援する社会保障制度は介護保険制度以外にはありません。尚、『家族支援』にはケアマネジャーが重要な社会資源となりますが、担当するケアマネジャーの知識や経験、ケアマネジャーの個人的な価値観や家族観に大きく影響されることになってしまう為、ケアマネジャー個人には資質向上が求められ、サービスの活用だけではなく、『家族支援』を目的とした意図的な相談・面接を行う技術が大変重要であることを学びました。また、私自身がケアマネジャーとして家族と関わるにあたり、単に雑談するのではなく一定水準以上の相談技術をもって接しているか？ また、『家族支援』という認識をもって意図的に面接する技術を持っているのかどうか？ と、改めて考えさせられました。

今回の研修を通じて、公正・中立な立場であるケアマネジャーの『面接技術』が『家族支援』に資するものであると改めて感じました。今後の支援にあたる際には偏った価値観・家族観にとらわれることなく、利用者と家族の成長を促しながら相談援助の専門職として対応していきたいと思えます。

※ この研修はオンラインにて開催されました。



適切なケアマネジメント手法・疾患別ケア研修（認知症編）に参加して

報告者：鳳鳴苑在宅介護支援センター 坪内 理香

令和7年7月22日と10月21日の計2回、国際医療福祉大学大学院教授 石山麗子先生の『適切なケアマネジメント手法・疾患別ケア研修（認知症編）』を受講しました。疾患別ケアは、令和5年度の脳血管疾患編、令和6年度の心疾患編に続いて、今年度の認知症編はその第3弾となります。

毎年疾患別ケア編を受講させていただいていることに加えて、日頃よりよく学んでいる認知症に関連する研修なので、他の疾患に比べて苦手意識は薄く、ケアマネジメントの抜け漏れが少ないのではないかと高を括りながら受講しました。

ところが、先に学んだ2疾患とは異なる特徴がありました。大項目は1番からはじめるのではなく0番である『ここまでの経緯の確認』からはじめること、つまり認知症と診断される前段階でどのようなエピソードがあったのか、また、診断に至るまでに関わってきた職種等との連携についてアセスメントすることが重要だということです。

私自身、研修を通じて介護支援専門員として出会う前の情報である、ご本人の役割や日常生活のリズム、人間関係等の過去に対する情報の収集が完全に情報不足であることを認識いたしました。また、これらの前段階の聞き取りを疎かにしては認知症の方の意思決定支援や尊厳の保持への支援は不可能だと理解しました。まだまだ浅学菲才だと痛感しています。

先生が演習として提供くださる【in-out 活動状況表】を用いて丁寧に対象の方のアセスメントをした結果、ほぼ毎回新たな課題を発見します。その課題を多職種で共有することで、適切なケアが実現するのです。

これからもひとりひとりに寄り添ったケアマネジメントが提供できる介護支援専門員でありたいです。また、そのためのツールとして「適切なケアマネジメント手法」は活用していきたいと思います。

機会があるなら、また石山先生から学びたいです。また、これからも先生が富山県のために尽力していただければ、まだ受講していない介護支援専門員のみならず、それ以外の介護に関わる様々な職種の方にも受講してほしいと切願します。

※ この研修はオンラインにて開催されました。

適切なケアマネジメント手法・基本ケア研修に参加して

報告者：戸出・中田地域包括支援センター 種村 恵

令和7年8月8日、11月27日、令和8年3月17日の計3回にわたり、国際医療福祉大学大学院教授 石山麗子先生を講師として『適切なケアマネジメント手法・基本ケア研修』が開催されました。

今回の研修では、地域包括支援センターに所属する現在の自分の支援姿勢を振り返る、とてもよい機会となりました。以前に私が居宅介護支援事業所で要介護者を担当していた頃と比べ、現在、勤務する地域包括支援センターでは比較的自立度の高い方を担当することが多く、アセスメントが浅くなっていた場面があったことに改めて気づかされました。研修で学んだ in-out 活動状況表を用いたアセスメントを実践してみると、これまで見落としていた課題が複数浮かび上がりました。自立度の高い方は「食事や水分は適切に摂取されているだろう」と無意識に前提を置き、丁寧に確認を怠っていたことは大きな反省点です。

食事量や水分摂取量を実際に記録し、日々の変化を可視化することで、利用者の生活の実態がより立体的に把握できるようになりました。また、身長・体重から必要な水分量やカロリーを算出し、数値として「その方にとって必要な量」と「現状」を比較することの重要性も実感しました。根拠をもとに説明することで、利用者や家族にも状況を理解してもらいやすくなり、支援の方向性を共有しやすくなることも大きな学びでした。

今回の研修は、ケアマネジメントの基本に立ち返り、思い込みを排して丁寧にアセスメントすることの大切さを再確認する貴重な機会となりました。今後も、根拠に基づいた支援を積み重ね、利用者の生活の質の向上につなげていきたいと考えています。

※ この研修はオンラインにて開催されました。

いい日、いい日介護の日 in とやま 2025 に参加して

報告者：守山・二上・能町地域包括支援センター 広岡 小百合

令和7年11月3日（月）フューチャーシティーファオーレ富山にて開催されました『いい日、いい日介護の日 in とやま 2025』に参加しました。



今年度の『当協会（富山県介護支援専門員協会）のブース』は『ファオーレホール』から『ときめきの広場』へ移して開催したことで、2Fからエスカレーターで降りて来られた方や『ときめきの広場』で隣接していた『ヘルパー協会』のブースに来られた方々等、昨年より多くの方の目に留まったと思います。

『当協会のブース』では、坂東会長の挨拶をはじめ、介護支援専門員の仕事を知らせてもらうPR動画を流しました。

また、各圏域の介護支援専門員の写真をパネル展示して、活躍されている介護支援専門員の笑顔の写真を多くの方々に見てもらえ、介護支援専門員の仕事を理解してもらえるきっかけになったと思います。

さらに今年度は『仕事と介護の両立を支援する制度』のチラシも配布し、多くの方々が手に取って下さいましたし相談を受けたりしました。



当日はあいにくの雨でしたが、『太陽の広場（メインステージ）』ではキーワードラリーや大抽選会などもあり沢山の方々が参加され大変盛り上がっていました。また、キーワードを探しに私達のブースにも多くの方々が足を運んで下さいました。



令和7年度 BCP研修に参加して

報告者：小杉南地域包括支援センター 石川 ひとみ



令和8年2月28日 サンシップとやまにて『BCP(業務継続計画)作成研修～被災経験から学ぶBCP作成と見直しポイント～』が、集合・オンラインのハイブリッドで開催されました。



第一部の講義では、講師の石川県介護支援専門員協会副会長 水上直彦氏から令和6年1月1日に発生した能登半島地震の発災後の時間経過において、どのように対応したのか具体的な説明がありました。災害発生直後は、職員にできる事は少なく地域の支え合いが大切であったとの説明を聞き、日頃から避難行動要支援者登録や地域の支援者とのつながりが必要だと思いました。

また、業務中に災害が発生した時は、混乱を防ぐ事が重要であり、指示はシンプルに、やらなければならない事がたくさんある中でもできる事から行う。スタッフも指示を待つのではなく主体的になり、小さな事からでも良いので、できそうな事を行い、互いにできた事や改善した事を素直に喜び、スモールステップとしていく事が長期的支援には必要な事として学びました。

第二部のグループワークでは、『実際に甚大な被害があった』『大きな被害があった』『被害が少なかった』の3つのグループに分かれ災害直後の時間の経過と共にやらなければならない事の体験を具体的な内容で行いました。各グループのワークでは、どんな事を情報収集するのか、必要な物は何か、誰に助けを求められるのか、改めて考える機会となりました。



日頃から関係機関や地域と災害が起きた時には、何を確認しどこへ連絡・相談するのか役割をお互い共有し、地域包括支援センターとして、災害が起こった時にどのように対応するか、今一度確認していきたいと思いました。

独居・高齢者夫婦の支援強化とセルフネグレクトの予防に関する研修に参加して

報告者：高陵・下関地域包括支援センター 竹中 葉子

令和8年3月3日、花園大学社会福祉学部 福富昌城先生の『独居・高齢者夫婦の支援強化とセルフネグレクトの予防に関する研修』を受講しました。『セルフネグレクトの実際事例を用い課題解決手法を学ぶ』と題し、セルフネグレクト状態の方への支援の考え方についての講義の後に、事例について、どのように見立て、どのような手立てが考えられるかグループディスカッションを行いました。



講師 福富昌城先生



まずセルフネグレクトとは、社会の中でSOSを発信できず、支援されないという観点からは、社会がネグレクトしていると考えられると説明を受け、社会、支援者側の問題でもあると認識しました。日々の現場では、不衛生な住環境や健康状態の悪化など、危険性が高い状況に直面すると、早急に改善しなければならないという思いが先立つことがあります。しかし研修を通じて、背景には孤立や経済的困窮、心身の不調、喪失体験など複合的な要因があることを学び、表面的な状況だけで判断しない姿勢が重要であると再認識しました。支援が難しい方こそ、当たり前の支援をより丁寧に行う必要があると先生がお話されたことも印象に残りました。今後は、リスク評価を丁寧に行いながらも、本人の思いに寄り添い、小さな合意形成を積み重ねる関わりを実践していきたいと思います。

また、本人に支援拒否の意思がある場合においても、その背景にある思いを丁寧に汲み取るためには、実際に本人が語りそうな言葉を用いて仮説を立てることが利用者理解につながることを教えて頂きました。



今後は、危険性の評価と同時に、本人の強みやこれまでの生活歴にも目を向け、関係機関と連携しながら粘り強く関わっていきたいと思います。また、孤立を防ぐための地域づくりの視点も大切にしていきたいと感じました。

今回の研修で得た学びを、日々の支援の実践に活かしていきたいと思います。



令和7年度 管理者研修（シャドーワークの向き合い方）に参加して

報告者：ケアサポートにながわ 高村 真由美

令和8年3月19日にオンラインで行われた管理者研修『シャドーワークをどうとらえるか 地域に暮らす方への支援現状と課題―身寄りのない方の支援―』に参加しました。講師は富山県介護支援専門員協会副会長 竹内嘉伸先生でした。

本研修では、介護支援専門員がその方の暮らしを支えるために一時的に動かざるを得ないことがあります。基本に立ち返り、介護支援専門員としてどのように対応すれば良いのかを学ぶことができました。

シャドーワークをする介護支援専門員は、能力がないのではなく、悪いことをしている訳でもなく、利用者や家族を介護支援専門員に「依存」させることがよくないと言われたことで、私自身の利用者や家族との関り方を見直す機会になりました。依存させない為の3つのコミュニケーション術があり、①「YES/NO」ではなく「HOW」で返す。どうすればご自身で解決できるかを一緒に考える対話を挟む。②役割の「見える化」と「予告」。契約時や更新時に「あえて手を出さない範囲」を明確に共有する。③「小さな成功」を過剰に承認する。自分で決めることができ、心理的な依存心を減らす狙いがあると話され、今後活かしていきたいと思いました。

また、このように対応するためには、アセスメントが重要であり、利用者や家族がどこまでできるのかを知り、利用者の認知能力の把握ができていることが前提になる。さらに、介護支援専門員として、「つなぐ」方法を学習することも必要であり、講義の中でも、財産管理等の委任契約という制度の紹介がありましたが、さまざまな制度について、学習する必要性を感じました。

介護支援専門員は、アセスメントを行い、利用者や家族の持てる力を引き出し、依存につながらないようにコミュニケーション術を活用することで必要のないシャドーワークを減らし、さらに事業所内でもルールを決めるなどして統一していく必要性を認識することができました。

※ この研修はオンラインにて開催されました。



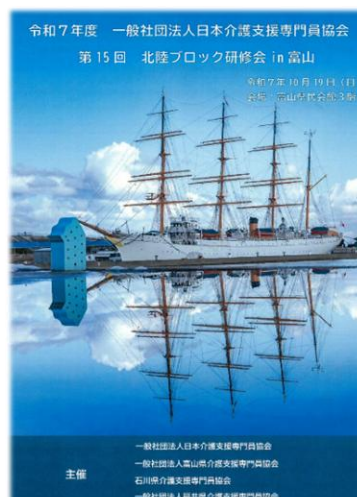
第15回 北陸ブロック研修会 in 富山 特集(1)

開会式・基調講演の報告

報告者：矢野居宅介護支援事業所 森越 祥江

令和7年10月19日に集合とオンラインでのハイブリッド形式で『第15回 北陸ブロック研修会 in 富山』が開催されました。「介護支援専門員と多職種連携の未来～災害時に備えるケアマネジメント提供体制～」をテーマに日本介護支援専門員協会柴口里則会長より日本介護支援専門員協会の活動報告をしていただいた後、コミュニティヘルス研究機構理事長の山岸暁美先生の基調講演がありました。

柴口会長からはケアマネジメントに係る課題やケアマネの処遇に関する事など現在厚生労働省で検討されている内容等についてご説明いただきました。ケアマネの労働環境をより良いものに変えるためには自分達ケアマネの声を国に届けることが必要であり、そのためにもまずはケアマネ一人一人がそのことを認識しなければならないと感じました。



講師 柴口里則会長



講師 山岸暁美先生

山岸先生には「地域BCPのススメ～スタッフ、利用者、そして住民のいのちと生活を守るために～」と題して講演いただきました。感染症や災害が発生した時、従業員や利用者、地域住民のいのちや暮らしを守るためには自事業所だけのBCPだけでは限界があります。同業職間で互いに不足する機能を補い地域全体で医療やケアが継続できる視点を持つことや日頃より通常業務を洗い出しBCP発動時に優先、縮小、休止する業務を振り分けておくことの必要性についてご講義いただきました。

山岸先生のいのちを救うとは日常を繋ぐことであるとの言葉が深く印象に残り、地域包括BCPについての理解は深めると同時に改めて平時からの多職種との連携や地域との繋がりが大切であると感じました。



発表・シンポジウムに参加して ①

報告者：万葉居宅介護支援事業所 松谷 三和



今回のブロック研修会では山岸暁美先生の基調講演『地域 BCP のススメ』、発表・シンポジウムでは他の発表者の皆様の高い専門性と幅広い知識と見識に富んだご意見を拝聴し、改めて災害時こそ『地域で支え合う仕組み』が必要であることを学びました。

私自身、能登半島地震の際には氷見市にて震度 5 強の揺れを経験しました。混乱の中で利用者様やご家族の安否確認に奔走し、災害時のケアマネジメントはマニュアルではなく、『命を守る判断力』が問われることを身をもって痛感いたしました。



発表者 松谷美和氏

私の発表では、災害対応について『①平時』・『②発災時』・『③事後』の 3 つのフェーズに分けて

- ① 平時には『情報の共有』と『顔の見える連携』の重要性
- ② 発災時には『無理をしない勇気』と『地域との協働』の重要性
- ③ 事後には『振り返りを次につなげること』の重要性

以上のそれぞれにおける重要な点を述べさせていただきました。

また、情報収集や連携の面では、写真・動画・AI などの活用が有効であること、更に平時から行政・医療・介護・住民・多機関との顔の見える関係づくりが、非常時の迅速な支援につながることを提案させていただきました。

他の 5 名の発表者の皆様の発表では、被災地での実践例や支援体制づくりの工夫が紹介され、自地域においても BCP (業務継続計画) の再整備と職員間の訓練の必要性を強く感じました。

能登半島地震の教訓を風化させることなく、「それでも命を守りたい」という思いを胸に未来へとつながるケアマネジメントを創造していきたいと思います。

今後も災害の経験を共有しながら、安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいります。

今回のブロック研修会、発表・シンポジウムに参加させていただき本当にありがとうございました。



第15回 北陸ブロック研修会 in 富山 特集(3)

発表・シンポジウムに参加して ②

報告者：南砺市地域包括支援センター 竹内 嘉伸



研修会のテーマである『介護支援専門員と多職種連携の未来—災害時に備えるケアマネジメント提供体制—』に合わせて、基調講演やシンポジウムを準備させていただきましたが、多くの皆さんに参加いただき、勉強になったとの評価もいただきました。そして、富山県介護支援専門員協会に所属する皆さん方からも、元気のある研修会と評価いただくことが多く励みとなる研修会でした。



私が本研修会で介護支援専門員の課題として勉強になったことは多くありますが、特に次の2点が印象的です。

第1は、災害時に備えるために、平時からの多職種との協働した備えが必要であることです。想定していた福祉避難所などが機能しなくなった場合など想定外が多く発生するのが災害です。想定を何重にも重ねて検討しておくことは無駄ではないことが学べました。

第2は、災害時には高齢者のみならず地域住民すべてが支援の対象となり、自身の支援も自身で検討する必要があるということです。災害支援は属性を問わず、要介護者だけでなく子どもや障害者も合わせてすべての日常生活圏域の住民を支援することになります。

これは、包括的なケアマネジメントの仕組みをさらに深化させていくことでもあり、ケアマネジメントの仕組みを再考する機会になりました。



発表者 竹内嘉伸氏

最後になりましたが、第15回北陸ブロック研修会が意義深いものになったのは、多くのプログラムを企画し、同時に準備を進めてくれた吉田克彦実行委員長を始め、多くの実行委員会の皆さんのお力によるものであり、心から感謝申し上げます。

そして、第16回北陸ブロック研修会では、また多くの皆さんに是非ご参加いただき、一層の学びの場になっていただくことを期待しています。



座長 山田剛氏 コメンテーター 水上直彦氏



第15回 北陸ブロック研修会 in 富山 特集(4)

発表・シンポジウム・閉会式の報告

報告者：ケアスタジオ介護相談所 島崎 新一

『第15回 北陸ブロック研修会 in 富山』の午後の部(第2部)は大会テーマである『介護支援専門員と多職種連携の未来～災害時に備えるケアマネジメント提供体制～』に即して北陸3県の皆さんにて災害に関わってのケアマネジメント、情報共有やBCPの在り方等や活動実践報告の発表がおこなわれました。



福井県からは福井赤十字病院居宅介護支援事業所 山崎奈満氏、地域密着型通所介護 いちごライフ 山岸麻野氏、石川県からはケアマネステーション恵寿 清水光代氏、オレンジケア2号店 山本治美氏、富山県からは万葉苑居宅介護支援事業所 松谷三和氏、南砺市地域包括支援センター 竹内嘉伸氏の6名の方々の発表を聴講させていただきました。

令和6年1月1日に生じた『能登半島地震』から未だ2年足らずの経過にて皆さんの記憶も鮮明にある中であり、発表者の皆さんもこの度は実体験された内容の発表や今後への提言であり、ケアマネジャーとして今後の災害の被災前にどのような備えが必要であるのか。また、被災により生じた課題にどのように向き合い対処すれば良いのか改めて認識させていただきました。また、未だ復興半ばの地域も多くありますが、今後の為にもこの度の震災で起きた出来事などは風化させないことも大事であると思いました。



発表に引き続き発表者6名と座長に日本介護支援専門員協会常任理事 山田剛氏、コメンテーターに石川県介護支援専門員協会副会長 水上直彦氏にてシンポジウムが開かれ、被災時における課題や今後の対処に向けて活発な意見が交わされました。

閉会式では、次回同大会の開催予定地である福井県の福井県介護支援専門員協会会長 貴志英生氏から閉会の挨拶をいただき無事に大会を終えることができました。

余談となりますが、閉会式に先立ち会場参加の皆さんだけの限定の余興として『じゃんけん大会』の催しもありました。商品は今秋獲れたての『富山県産の新米』が用意しており、会場参加の皆さんは、この日一番の盛り上がりとなり白熱した催し物となりました。

この度は大会実行委員の皆さんは多忙な業務の側での大会の準備と当日の運営お疲れ様でした。

次回は福井県での開催予定となりますが、1年後に福井県にて皆さんと笑顔で再会できることを楽しみに心待ちにしたいと思います。



福井県介護支援専門員協会
貴志英生会長



第15回 北陸ブロック研修会 in 富山 特集(5)

第15回 北陸ブロック研究大会 in 富山を終えてのお礼

大会実行委員長 富山県介護支援専門員協会 吉田克彦

このたび、「第15回北陸ブロック研究大会 in 富山」を無事に開催できましたこと、心より御礼申し上げます。

本大会は、北陸3県（富山・石川・福井）の実行委員の皆様のご協力のもと、約10か月にわたる準備期間を経て開催することができました。ハイブリッド形式により、北海道や福島県など遠方からも多数ご参加いただき、総勢150名を超える皆様と学びと交流の時間を共有できたことを大変うれしく思います。



山岸暁美先生のご講演をはじめ、6名の事例提供者の皆様には、現場に根ざした貴重な実践報告をいただきました。それぞれの発表には、日々の葛藤や工夫、そして子どもたちへの深い思いが込められており、参加者にとって大きな学びの機会となりました。心より感謝申し上げます。

最後に、ご参加いただいた皆様、準備・運営に携わってくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。今後とも北陸ブロックの教育研究活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



次回の北陸ブロック研修会開催のお知らせ

『令和8年 第16回北陸ブロック研修会』は福井県にて開催予定です。会場や日程など詳しい内容は決まり次第、あらためて皆様へご案内させていただきます。また、次回も多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。



賛助会員一覧

賛助会員の企業・団体をご紹介します。当協会へのご協力とご支援に感謝申し上げます。

- ◇ 中央法規出版株式会社
- ◇ 株式会社トーカイ 富山営業所
- ◇ 株式会社ウィル
- ◇ 株式会社スリーティ運輸 ヘルスケア事業部
- ◇ 日本こども福祉専門学校 通信教育部
- ◇ 株式会社富山県義肢製作所
- ◇ 日本海綿業株式会社
- ◇ 東洋羽毛北信越販売株式会社 北陸営業所
- ◇ 株式会社ハシノメディカル富山
- ◇ 明祥株式会社 富山支店
- ◇ 株式会社社会保険研究所 出版事業部
- ◇ 株式会社ねこの手
- ◇ 株式会社瑠璃光
- ◇ 株式会社エス・エム・エス 介護ソフト「カイポケ」マーケティンググループ

令和8年3月31日現在

協 会 員 募 集

一般社団法人富山県介護支援専門員協会は介護支援専門員がスキルを高める為等、研修を重ねると共に相互の情報交換や交流を深める為、活動しています。調査・研究、研修の企画、会報のホームページへの掲載等、会員の皆様にとって有用な情報をお伝えできるよう、理事会・各委員会で活動を進めております。

是非、多くの介護支援専門員の方々に当協会の会員になっていただきますようお願い申し上げます。また、当協会への入会と同時に日本介護支援専門員協会への入会もできます。

富山県介護支援専門員協会への入会希望

正 会 員・・・年会費 5,000 円+入会金 1,000 円

賛助会員・・・年会費 5,000 円を1口とし、2口以上+入会金 2,000 円

日本介護支援専門員協会と同時入会希望

正 会 員・・・12,000 円（内訳：富山県介護支援専門員協会費に加え、入会金 1,000 円+年会費 5,000 円）

詳しくは、富山県介護支援専門員協会ホームページ (<http://www.toyama-cm.com/>) をご覧ください。

【入会のお問い合わせ・申し込み先】

〒930-0094

富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館サンシップとやま 3F 一般社団法人富山県介護支援専門員協会事務局

TEL：076-432-6455 ・ FAX：076-432-6450 Eメール：toyama.caremane@wel.pref.toyama.jp

バ ナ ー 広 告 募 集

富山県介護支援専門員協会ホームページ (<http://www.toyama-cm.com/>) のバナー広告を募集いたしております。

広告掲載料（年額） 1 枠あたり 30,000 円（税別）

※1. 広告掲載料は、年度全期（1年間：4月1日～翌年3月31日）分の一括前納となります。

※2. 年度途中からの掲載につきましては、1月あたり2,500円とし、掲載開始月から期末までの月数分となります。

※3. 掲載希望日の一ヶ月前までに、お申込みください。

【バナー広告のお問い合わせ・申し込み先】

〒930-0094

富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館サンシップとやま 3F 一般社団法人富山県介護支援専門員協会事務局

TEL：076-432-6455 ・ FAX：076-432-6450 Eメール：toyama.caremane@wel.pref.toyama.jp

編集後記

『令和7年度 北陸ブロック研修会』が富山県にて開催されたこともあり、『とやまね通信』には関連の記事を含めて多くの寄稿をいただくことができました。また、オンライン研修では、どうしても記事へ掲載する写真の数は減ってしまいますが、集合もしくはハイブッドでの研修も増えていることから、この度に編集させていただきました『とやまね通信』では、会場にて撮らせていただいた写真を多く掲載させていただくことができました。

この度に発行させていただく総集編は先に協会ホームページのWeb版にて随時に掲載させていただいた令和7年度の記事の再編集となりますが、Web版・総集編の共々に皆様方に御覧いただくことを楽しみとしております。

また、お忙しい中にて原稿をお寄せいただきました皆様方には厚くお礼を申し上げます。

一社) 富山県介護支援専門員協会 広報委員会 島崎 新一

